

## 平成24年度教育研究活動報告書

氏 名	平山直樹	所 属	芸術文化学部日本文学科
学 位	博士（文学）（広島大学）	職 位	講師
専門分野	英語の歴史研究		
I 教育活動			
本年度担当科目			
学 部	TOEIC I、TOEIC II、応用英語 I、応用英語 II、上級英語 I、上級英語 II		
大学院	英語学特論		
II 研究活動			
これまでの主な研究業績（5件まで）			
<p>(1) 〈学会発表〉「『パストン家書簡集』における理由を表す接続詞」、日本中世英語英文学会第28回全国大会 於 広島大学、2012年12月2日.</p>			
<p>(2) 〈論文〉「『パストン家書簡集』におけるME THINKS」、尾道市立大学日本文学論叢第8号、pp. (1)-(18)、2012年12月.</p>			
<p>(3) 〈論文〉「名詞節を導くthatの省略について—『パストン家書簡集』におけるTHINK— —『英語教育への新たな挑戦—英語教育内容学の視点から』、pp. 205-17、英宝社、2010年7月.</p>			
<p>(4) 〈論文〉“Epistemic Adverbs in the Paston Letters,” English Philology and Stylistics: A Festschrift for Professor Toshiro Tanaka, Edited by Osamu Imahayashi and Hiroji Fukumoto, pp. 59-71, 溪水社, 2004年12月.</p>			

(5) 〈論文〉 “The Language of Requests in the Paston Letters: The Grammaticalization and Subjectification of X PRAY Y,” 広島大学英文学会『英語英文學研究』第46巻, pp. 25-43, 2002年3月.

本年度を含む過去5年間の研究業績

(1) 〈論文〉 “Will / Would + Nominal Clause in the Paston Letters,” Language and Style in English Literature: Papers by the Members of The English Research Association of Hiroshima (ERA), Edited by Michio Kawai et al., Peter Lang, 2013年 (掲載予定).

(2) 〈論文〉 「『パストン家書簡集』におけるME THINKS」, 尾道市立大学日本文学論叢第8号, pp. (1)-(18), 2012年12月.

(3) 〈学会発表〉 「『パストン家書簡集』における理由を表す接続詞」、日本中世英語英文学会第28回全国大会 於 広島大学、2012年12月2日.

(4) 〈学会発表〉 「『パストン家書簡集』におけるME THINKS」、尾道大学日本文学会大会 (第3回おのみち文学三昧) 於 しまなみ交流館, 2011年12月3日.

(5) 〈学会発表〉 “Trow and Think in the Paston Letters,” Middle and Modern English Corpus Linguistics (MMECL) 2011, Osaka University, Aug. 26, 2011.

現在の研究テーマ (3つまで)

(1) 『パストン家書簡集』における英語の歴史的研究

研究テーマの  
進捗状況

15世紀の英語で書かれた手紙を集めた『パストン家書簡集』の言語特長を歴史的に研究している。その一環として、現在は理由を表す副詞節に着目している。2012年12月に接続詞becauseに導かれる理由節について研究発表した。その後さらに他の接続詞に導かれる理由節についての研究を進めている。

学会、所属団体における活動

所属学会・所属団体 役職等

日本英文学会, 日本英文学会中国四国支部, 日本中世英語英文学会, 日本中世英語英文学会西支部, 近代英語協会, 英語史研究会, 英語コーパス学会, 山口大学英語教育研究会 (運営委員, 編集委員), 尾道市立大学日本文学会 (運営委員)

Ⅲ 社会活動

1. 学外活動

『尾道文学談話会』の1回分を「15世紀イギリスの手紙を読む」という題目で担当した。

## 2. 委員会及び協議会委員

尾道市関係

尾道みなと祭実行委員会